

■ JSTTの委員会活動

(1) 企画委員会

6月18日(水)第1回企画委員会を開催し、JSTTの存在意義、JSTTにどのような営業活動をさせるのか、そして事業化できるかといった視点にたち、フリーディスカッションを行いました。その中で会員企業の技術を世界に発信するために「TRENCHLESS International」に投稿する。また、各国のSTTとの交流を深める手始めとして機関誌の交換を働きかけることなどについて提案されました。そこでJSTT会員企業が海外に売り込みたい技術や海外展開の取り組みや情報等についてアンケート調査を行い、JSTTが担うべきことについて検討することとしました。また、外国での会員企業のビジネスチャンスを増大するためにどのような方策があるのか検討の価値があるなどの意見が出されました。JSTTとしてこれからは会員企業がビジネスに食いつむための情報収集、配信していくことの必要なども提起されました。

(2) 地下探査委員会

7月9日(水)第16回地下探査委員会を開催しました。現在マニュアル作りを継続中ですが、第2章の構成について議論がなされました。2.1地下探査技術総論 2.2適用技術の原理と利用としました。第3章(埋設物)と第4章(空洞)の間に新たな章を立てて発注者と受注者の関係を含む調査全体の流れについて加えることとしました。

また、今回の委員会では言葉や名称の統一、用語として説明すべきものの整理、探査深さと周波数などの技術的な統一を図るべきものなどについて審議しました。

(3) 機関誌「No-Dig Today」編集委員会、 編集企画小委員会

【編集委員会】

7月11日(金)編集委員会を開催し、次回発行の89号の特集「大中口径の修繕・更生技術」の口径区分を800mmとし、投稿を呼びかけることとしました。また、機関誌「No-Dig Today」の誌面改善の一助とするために、モニターを募集することが提案されました。次回事務局から提案を受け89号(10月1日発行)から実施の方向で検討することとなりました。また、機関誌「No-Dig Today」の配付先の見直しについて議論され、大学やコンサルタントなど新規に配付を考え、

県立図書館などを廃止の方向とし、経費も含め詳細を事務局で検討することとしました。

【編集企画小委員会】

7月11日(金)編集委員会に先立ち第108回編集企画小委員会を開催し、特集の企画を行うプレ委員を今後1人とすることや7月22日～25日に行われる「下水道展'14大阪」に参加した委員は見学記を執筆することとしました。

(4) 非開削技術講演会

7月15日(火)第21回非開削技術講演会を開催しました。写真速報でもお伝えしておりますが、本年度はテーマを「大更新次代と非開削」と題し、「新下水道ビジョンの策定」「B-DASHプロジェクト」「2020年東京オリンピックパラリンピックに向けた東京下水道の取り組み」の3本の講演を例年行っている虎ノ門の発明会館地下ホールで行いました。今年もCPDS、CPDの認定を受け、150名ほどの参加者をお迎えすることができました。また、(株)イセキ開発工機様とヤスダエンジニアリング(株)様の機械の展示も合わせて行いました。

(5) HDD(誘導式水平ドリル)工法委員会



8月26日(火)第58回HDD(誘導式水平ドリル)工法委員会を開催し、長距離施工の基準書(案)について持田委員から提案がなされ議論を重ねました。鋼管の場合の式は今後検討を重ねることとし、翻案を各社で持ち帰って個々質問を寄せ合い、式の精度を高めることとしました。

また、当日はアメリカのHDDメーカーで施工も実施しているDitch Witch社から3人のマーケット担当者(アジア・ロシア担当)が来日した機会を捉え、新

製品についてプレゼンがありました。特に社としてはMR90という掘削に使う泥水の分離装置の販売に力を入れているとのことでした。HDDの現場では時として水の確保に難儀するところが少なくないこともあり、泥水分離プラントで水の再利用を高める必要性があるとのことでした。環境の大きな違いを実感する製品でした。

(6) 工法ナビ運営委員会

9月3日(水)第49回工法ナビ運営委員会を開催し、前回で議論となった「日進量」の記載について、日本推進技術協会の記載事項の採用を事務局からのメールによる照会された案が了解されたことが報告されました。また、委員会では、現在見直し中の工法ナビの更新状況について報告がありました。

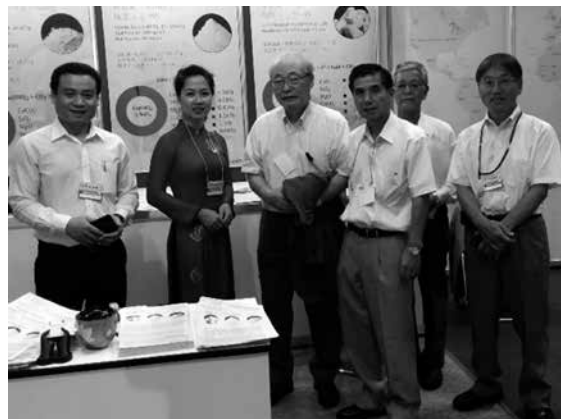
(7) 編集小委員会

9月5日(金)第110回編集小委員会を開催し、第89号の入稿状況を確認しました。また、90号の特集「小口径管路更生工法」について過去3回の特集で執筆いただいた団体に執筆検討依頼を送ることとしました。また、「管更生のJIS化」について執筆者を探すこととしました。また、今年は土木学会が創立100周年を迎えることから、国内イベントとしてこれを特集的に扱うことが提案され編集委員会に提案することとしました。

機関誌「No-Dig Today」の配付先の見直しとして県は埋設物管理者に1冊に整理統合し、新たな配付先として政令指定都市(道路管理者, 上・下水道事業者), 大学の土木系学科, コンサルタントとし、県立図書館,

県土地改良事業団については見直す案を編集委員会に提案することとしました。会員談話室の執筆を他委員会への拡大も検討することとしました。

■ 下水道展'14大阪で「ベトナムライム社」の出展をサポート



JSTTでは昨年から(公社)日本下水道協会からの要請で、海外出展者のサポート業務を行っています。昨年のドイツとアメリカに続き、今年はベトナムから生石灰を取り扱う会社「ベトナム・ライム社」の出展をサポートしました。やり手の営業マン、Hai Ngo氏(一番左)と、ベトナムの民族衣装”アオザイ”に身を包んだ美しいMandy Tran女史が、終日ブースで奮闘されていました。生石灰は日本でも取れますが、近年の燃料費高騰のあおりを受けて生産コストが上がっているそうです。ベトナムから高品質の生石灰が日本に入ってくる日も遠くないかもしれません。

